

園藝曆 (十一月 霜月)

大 岩 金

氣節 立冬 八日頃
小雪 廿三日頃

観賞

晩秋の候となり自然は追々に冬枯に向つて参ります。畑には尙前月に引續いて丈夫なサルビヤ、レトニヤ、カツコウアザミ、スカートアリツサム、ダーリヤなどが咲いて居ります、又色とりどりの大菊、小菊などあまり手をかけなかつたにしては以外にも美事に咲きました。木物としては山茶花が見頃でありました。

仕事

一、霜除

第一回の移植を終へた苗もありますれば移植しないで苗床に播種したまゝで越冬させます苗もありませう、夫々に霜除をしてやらなければなりません、最も簡單なのは落葉や藁の類をそつと上に散らしてやることであり、又は只に霜柱を防ぐ程度のものですと籾殻を苗の間に敷いてやつてもよろしく更に丁寧に致しますならば棒、竹などで北を塞いで南を高く明けた骨組を作りこの上に筵、ヨシズ、炭俵等を以つて覆するのであります。

二、腐葉土の準備

種々の紅葉もやがて落葉するやうになりました、畑の隅の危険のないやうな又目障にならないやうな場所を選びまして木の葉の量に應じた穴を掘りませう、そして落葉も土も一所にこの穴に掃き込みます、時々には水もかけてやり

ます、こうして落葉のある丈を穴に詰め込みまして一番上には更に炭俵の如きものをのせ所々に石などで風に吹き飛ばされないやう壓へておきます、そうして年末に二度二月頃になりまして今一度掘り出して積み替を致しますならば来る四月、五月の畑いじりまでには立派な腐葉土が出来てゐるのであります、この腐葉土こそは鉢作りに使つても又畑に入れても至極結構なものであります。

三、フレイムの管理

本式略式を問はず今月の半ば頃からは障子の外に一枚通りの覆物が必要になつて参ります、苦を用ひれば防寒と防水とを兼ねますが簡単にすませるには簾の類を用ひてもよろしいのであります、覆物は年により地方によりまして厚薄一枚でない事は今更申すまでもない事であります。覆物の上は紐でとめておく事が必要であります。夜間はこのやうに致しまして出来る丈の保護を致しますが晝間はなるべく障子を明け充分に日光にも當て通風もよくしまして徒長を防いだり害虫に對する抵抗力を強くしておかなければなりません。

四、ダリーヤやカンナの掘り上げ

一霜毎にダリーヤやカンナの基葉がいたんで参りますから地上二〇糎内外に切り球根を傷けないやうに掘り上げまして排水のよい暖所を選び九〇糎程の穴を掘りましてこの中に球を竝べ上に土盛りをしまして来る春まで貯藏しておくのであります。

グラデオラスも掘り上げまして是は蔭干としましたならば箱又は袋に入れて貯へておけばよいのであります。

五、收穫

イ、蔬菜

料理菊の收穫はこの中旬頃を以つて終りをつげチヨロギは今月が收穫始めとなりまして一月、二月頃まで引續いて掘りとられます。

ロ、實

いつの間に熟したのか高い枝から栗の實が落ちて参ります、銀杏拾ひも此頃の事でありまして大方の葉の落ちた後を眞赤に色彩する柿の實も一極目立つやうになりました。